

平成18年漁期イカナゴ漁況予報

平成18年2月14日
兵庫県水産技術センター

1. 気象・海象

(1) 水温 (図1)

今期の水温は11月上旬から12月上旬の観測まで平年より1 高めに推移したが、1月上旬には平年値 - 2 まで降下した。その後は降下速度が弱まり、2月上旬における平年値との差は - 0.6 まで縮まった。気象予報によると、2月中旬以降の気温は平年並みかやや高めと予測されているため、今後の水温も平年並みで推移すると予想される。

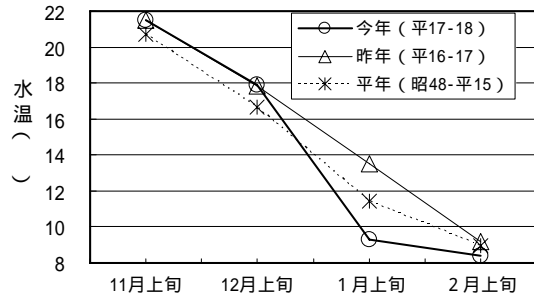


図1 水温の月変化 (播磨灘北部水深10m層)

(2) 季節風 (図2)

季節風は、12月は昨年に比べかなり強かったが、その後は徐々に弱くなり、1月下旬には12月上・中旬に比べ0.5倍程度まで弱まった。

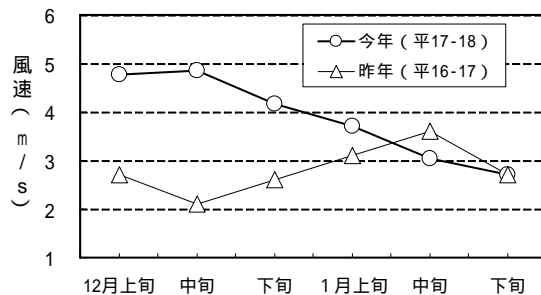


図2 日平均風速の月変化 (二見)

2. 親魚量及び産卵量 (表1, 図3)

鹿の瀬水域における文鎮漕ぎ1回当りの親魚採集尾数は478尾であった。これは昨年(35.5尾)の13.5倍であり、親魚密度は昨年よりかなり高かった。また、1尾平均の産卵量は7,088粒で昨年の0.44倍であった。この結果、親魚量と1尾当りの産卵量から求められる産卵量指数は、昨年を"1"とした場合、今期は5.9となり、鹿の瀬水域における総産卵量は昨年を大幅に上回ると推定された。

表1 イカナゴ親魚の調査結果

年	操業回数	年令組成 (%)		親魚密度 (尾/回)	産卵量指数
		1才魚	2才魚以上		
今年	12	97.2	2.8	478	5.9
昨年	14	40.8	59.2	35.5	1

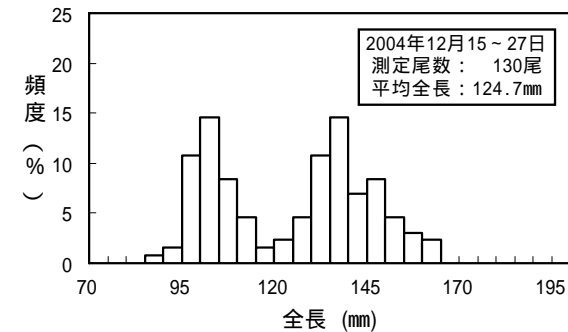
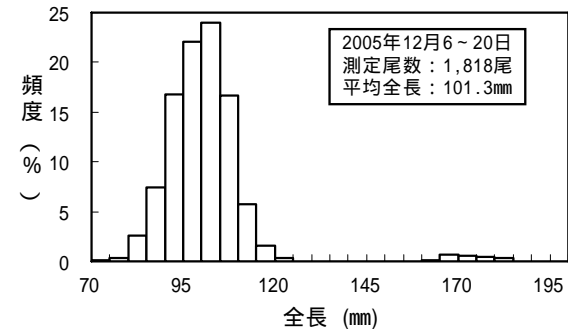


図3 イカナゴ親魚の全長組成

3. 産卵期 (図4)

一般に、イカナゴの産卵盛期は水温が14～12℃に下降する頃とされ、時期的には12月中旬～1月上旬である。今期の水温は12月初めまで高めであったが、それ以降は急激に低下した。産卵の指標となる生殖腺熟度指数の変化及び1月上旬の稚子の出現状況から判断すると、産卵盛期は昨年(1月2～4日頃)より早い12月20～25日と推定された。

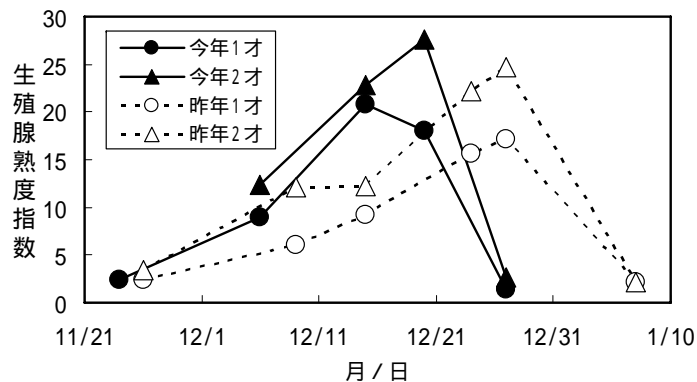


図4 生殖腺熟度指数の変化

4. 稚子の発生状況

(1) 第1次調査 (図5、図6)

第1次調査は、1月5～6日に播磨灘16点、1月10日に大阪湾12点、播磨灘1点、1月17日に紀伊水道6点で実施した。稚子は播磨灘で583尾、大阪湾で1,743尾、紀伊水道で32尾採集された。稚子のほとんどは明石海峡周辺部に出現しており、広い範囲へは拡散していなかった。稚子の大きさは、播磨灘と大阪湾では全長4mm程度であり、ふ化直後と推定された。紀伊水道では全長7mm前後のものが主体であった。

(2) 第2次調査 (図7、図8)

第2次調査は、1月30日に大阪湾12点、播磨灘1点、1月31日から2月1日にかけて播磨灘16点で実施した。稚子は播磨灘で4,689尾、大阪湾で2,353尾が採集された。採集尾数は播磨灘、大阪湾とも昨年を大きく上回り、過去10年間では最も多かった。稚子は、播磨灘では明石海

峡から淡路島西浦にかけて多く、また西部にも多い点が出現し、広範囲に分布していた。大阪湾でも、広い範囲で出現数の多い点が見られた。稚子の大きさは、播磨灘では全長4mm程度の個体が最も多く、次に5～10mmの個体が主体であった。大阪湾でも全長4mm程度の個体が最も多く、次に5～8mmの個体が主体であった。

5. 稚子の成育の見込み

本年は、2回の稚子調査の結果を比較すると、成育状況が悪かった事が伺える。これは、個体数が多く水温も低めに推移したためと考えられた。今後の水温は平年並みに推移すると予想されるものの、個体数が多い状況が続くため、この後の成育も遅れる可能性がある。

6. シンコ漁の予測

本年は、播磨灘、大阪湾とも稚子の出現尾数が多く分布も広い範囲に広がっているため、好漁が期待できる。しかし、成育に遅れが見られるため、網おろし日が早くなり過ぎないように注意する必要がある。

(1) 播磨灘

2月上旬の稚子の採集尾数、分布状況とも非常に良好である。したがって、本年の播磨灘におけるシンコ漁獲量は、昨年同様に平年漁を上回ると推定される。

(2) 大阪湾

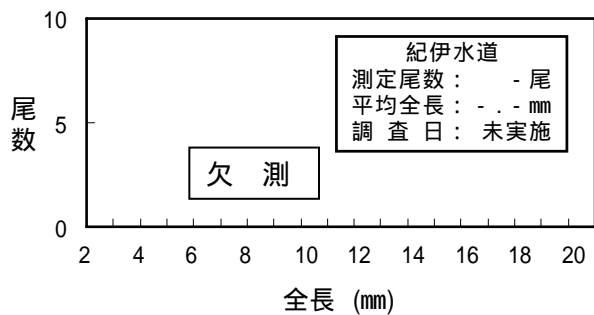
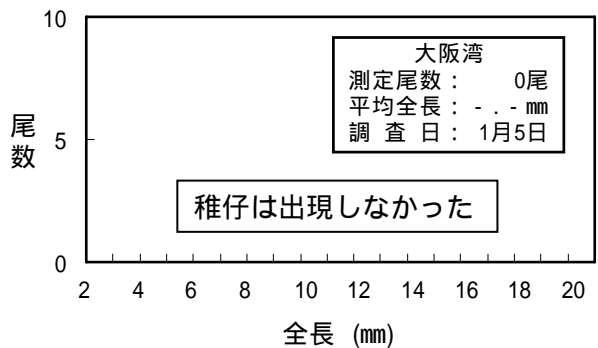
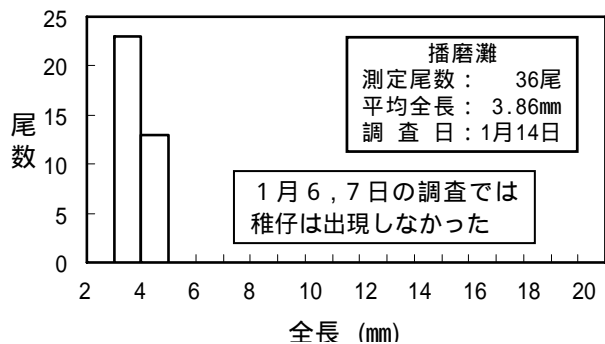
2月上旬の稚子の採集尾数、分布状況とも非常に良好である。したがって、本年の大阪湾におけるシンコ漁獲量は、平年を下回った昨年に比べかなり多くなり、平年漁を上回ると推定される。

(3) 紀伊水道

2月の播磨灘・大阪湾の稚子の分布状況から判断して、本年の紀伊水道におけるシンコ漁獲量は、昨年を上回ると推定される。

注) シンコの網おろし日は各地区の自主的判断によるが、過去の経験から、網下ろしが早すぎた場合は、不漁となる可能性が高い。したがって、網おろし日の決定にあたってはこの点を十分に考慮し、限られた資源の効率的な利用を図ることが重要である。

昨年



今年

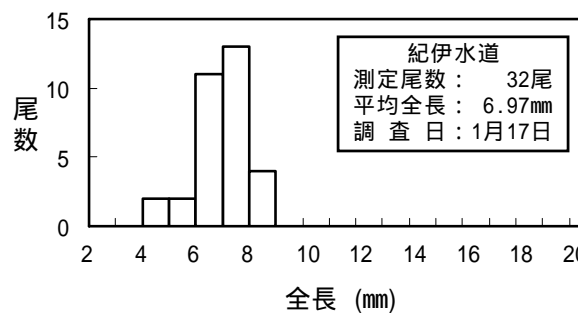
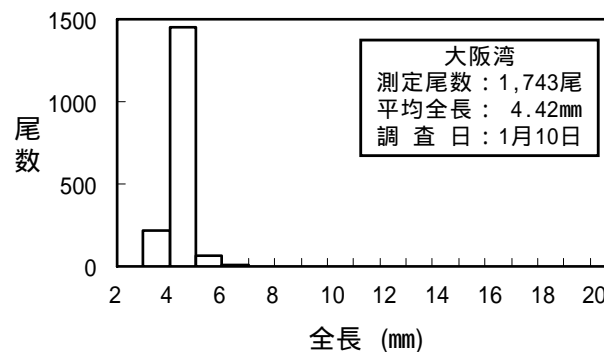
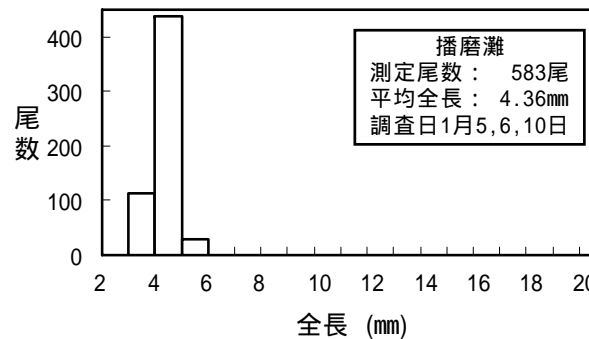
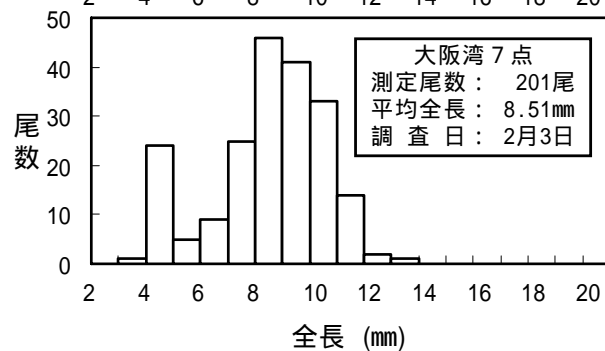
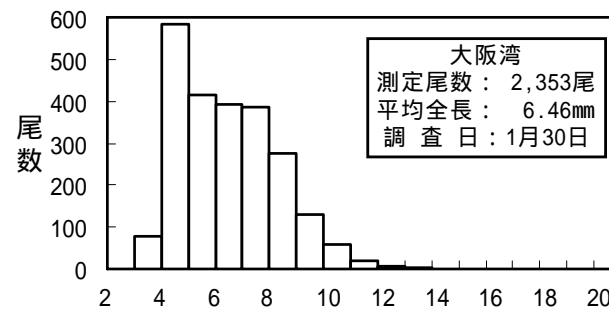
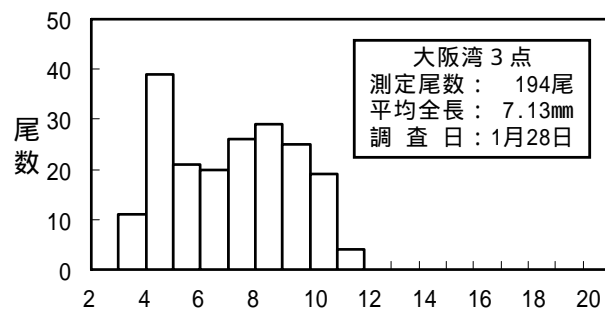
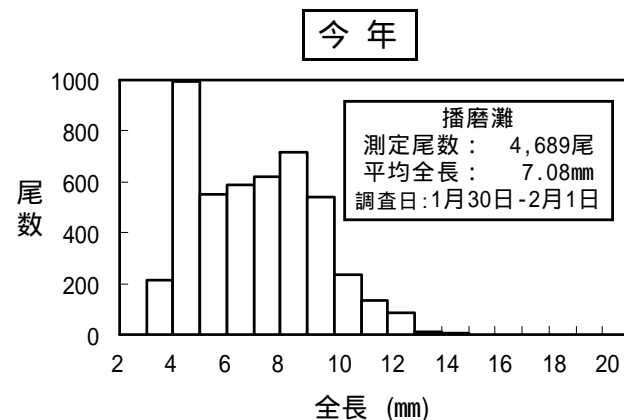
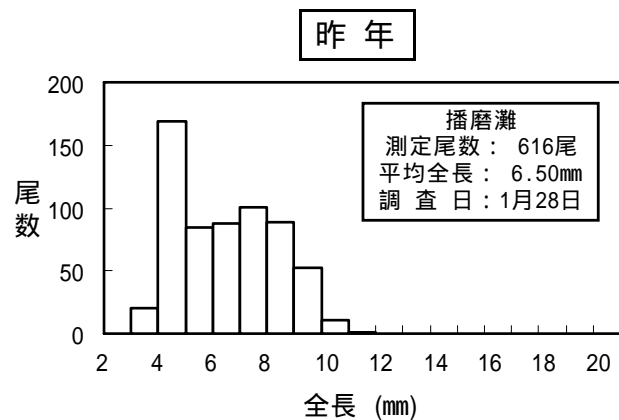


図5 1月イカナゴ稚仔の全長組成



(昨年のお阪湾は調査日が離れたため個別に示した。)

図7 2月イカナゴ稚仔の全長組成

昨年

今年

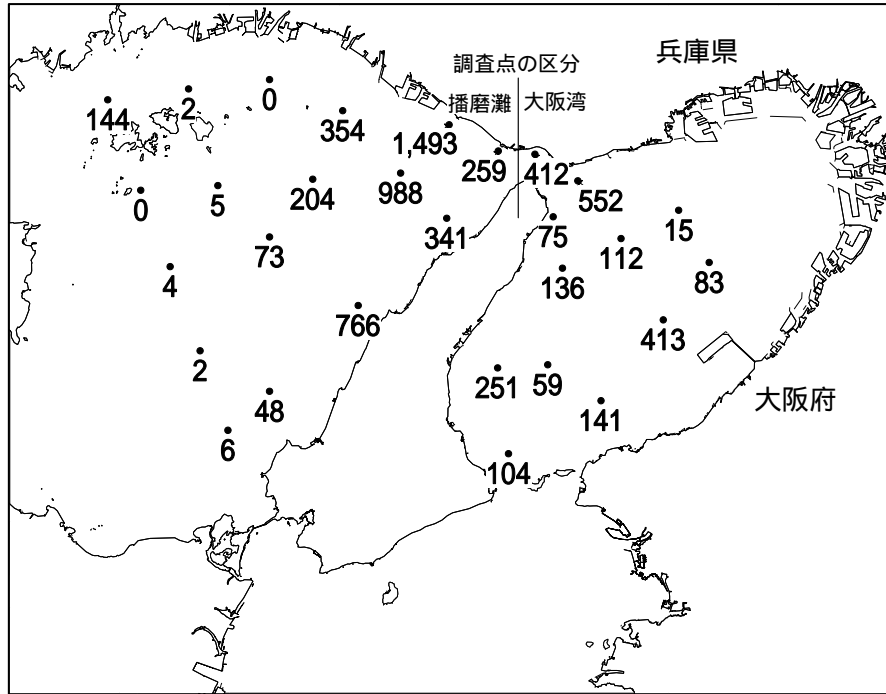
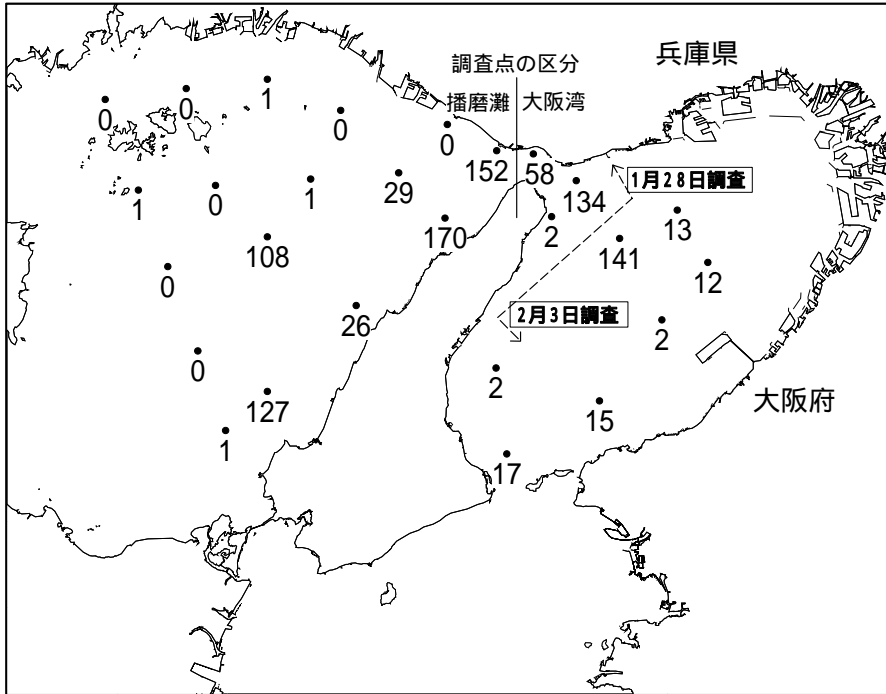


図8 2月イカナゴ稚仔の分布
(1曳網当たりの採集尾数)